



(和太鼓 六友会)
はやしぐち 林口 大登さん
はやし 林 洋子さん

太鼓の響きに魅せられて

土山町山内地域を拠点に活動している和太鼓六友会。平成14年に、地域の活性化と青少年の健全育成を目的に設立され、今年で10年が経過しました。現在メンバーは保育園の年中から高校生まで総勢26名で、市内のイベントにも数多く出演しています。

3月11日に開かれたイベントの出演後にリーダーの林口さん、林さんのお二人にお話を伺いました。

一六友会に入られたきっかけは何ですか

林口：僕はこの会が設立されたときに、友だちに誘われ、太鼓に興味があったので入会しました。

林：私は、4年前小学校の音楽会で太鼓を演奏したのがきっかけでまた太鼓が叩きたいと思い入会しました。

一和太鼓の魅力は何でしょう

林口：大きな太鼓を叩くと全身に振動が響き気持ちいいです。太鼓を叩いている間は集中しているのでいやなことも忘れてしまいます。

林：私は、新しい曲を練習してみんなの息がぴたりと合って演奏ができたとき、なんともいえない爽やかな気持ちになれるところです。

一リーダーは皆をまとめる役割がありますが、気を付けている点は

林口：林：年齢に幅があるので、年長の2人が常に先頭に立ってやるよう意識しています。皆かわいい妹や弟のような存在です。それと練習にはなるべく休まないようにしています。テスト期間中以外は練習を最優先しています。

一お二人は今後も活動を続けられるのですか

林口：春から高校3年になるので進路のことで忙しくなりますが、練習には参加しようと思っています。地元にいる限りは活動を続けるつもりです。

林：私は市内の高校に進学しますが、大好きな太鼓は続けたいと思っています。



◀熱のこもった演奏を披露する六友会のみなさん



市民向けモニターツアー

「忍者」にゆかりのある観光スポットを訪ねる市民向けのモニターツアーが3月6日、18日に開催され、延べ36名が参加しました。このツアーは市民の皆さんに「忍者」のことをもっと知ってもらい、観光に関する意見を聞き、今後のPRなどに役立てようと市観光協会の主催で今年初めて開催されました。

参加者は、忍者が保存食として作ったとされる「丸薬」づくりに挑戦したり、甲賀流忍術屋敷を見学したりしました。

信楽町から参加した武市智子さんは「忍者のふるさとに住んでいるのに地元のことをあまり知らなかったもので、今日は勉強になりました。ますます忍者のことが好きになりました。」と今回のツアーに大満足の様子でした。



◀丸薬作りに挑戦する参加者

「忍者」を新たな観光資源に

「忍者」にゆかりのある観光スポットを訪ねる市民向けのモニター

打楽器でみんながひとつに

忍の里プララロビーコンサート

気軽に音楽に親しんでもらおうと、喫茶コーナーが設けられたロビーコンサート「ぷらっとカエ」が、このほど、忍の里プララで開かれました。

今回、打楽器合奏団Touruの4名の皆さんのコンサートで、パーカッションやマリimbaを中心に約25種類もの打楽器を使い分け、多彩な表現が披露されました。

プログラムには、参加者がタンバリンやマラカスなどで合奏に加わるものもあり、懸命にリズムを取る子どもたちに、会場は手拍子に包まれました。



▲プロの巧みな演奏に聞き入る参加者



元気なまちかど

グローバルセミナー

市内には約2,600人の外国籍市民が住んでいます。共に甲賀市民として、お互いが理解しあいながらまちづくりをすすめていきたいものです。

▼熱心に議論を交わす参加者



震災から学ぶ 多文化共生の地域づくり

市国際交流協会主催のグローバルセミナーが3月4日、水口中央公民館鹿深ホールで開催され、民生委員、自治振興会役員など約60名が参加しました。

セミナーでは、言葉が理解できない地域で災害に遭ったことを想定し、避難誘導などの情報をどの程度理解できるかを試す「言葉がわからない体験ゲーム」や、地域の行事に外国籍市民に参加してもらうにはどのような工夫が必要かなどをグループで話し合いました。

参加者は、体験学習を通して多文化共生の視点からのまちづくりについて学習しました。

みてみて・つくってみて・たべてみて

まなび体験フェスタ2012

かふか生涯学習館で3月4日、「まなび・たいけんフェスタ2012」が開催され、同館で活動するサークルや団体が日頃の練習成果を発表しました。

音楽や舞踊などのステージ発表や書道や写真などの作品展示のほか、会場では押し花や、地元産のヒノキを使ったオリジナル箸づくりなどの体験コーナーが設けられ、訪れた参加者は思い思いに体験を楽しみました。

また、お昼には、豚汁やきなこせんべいの試食やかやくごはんの販売も行われ、「みてみて・つくってみて・たべてみて」を体験しました。



▲体験コーナーで箸づくりに挑戦する親子

高速道路での大規模災害に備える

新名神高速道路上での大規模災害発生に備え3月7日、土山サービスエリアで、甲賀広域行政組合消防本部をはじめ、関係機関が参加し、多重衝突事故により、負傷者が多数発生したとの想定で訓練が行われました。

訓練では被害を最小限に抑えるための連携を確認しながら、人命救助活動、消火活動、交通の確保などが的確に行われました。

高速道路での交通事故は、多重事故や死亡事故につながる可能性が高くなります。

車間距離や制限速度を守るなど、ルールやマナーに気を配るとともに、適度な休憩を入れるなど、余裕をもった運転に心がけてください。



▲油圧カッターを使い救助訓練を行う隊員